

評価項目	取り組み状況
<p style="text-align: center;">教育・保育方針 教育及び保育の目標 全体計画・指導計画</p> <p>こども園として特に配慮すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育・保育課程 ・教育環境の整備 ・研究の取り組み 等 	<p>「一人ひとり自信をもって活動し、違いを認め合う仲間づくり」を昨年度から引き続き今年度も園の研究テーマとした。また「おもしろいこと こどもも おとなも いっぱいやってみよう！」を園の年間のテーマとした。年齢が上がるにつれ自信がないからやらない、負けるからしないと感じる子どもが増え自己肯定感を持ちにくい現状がある。乳幼児期に愛着関係を育て、自信を持って、能動的に教育保育の活動に取り組み、周りとの人間関係を育むことを大切に取組みをすすめていった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間計画の中で子どもの姿を具体的に挙げて生活、遊びの中で大切にしていくことを職員間で共有し保育教育を進めていった。 ・研究テーマに基づき、講師を招聘しその中で主体的な遊び、仲間づくりについて学び保育教育に展開していった。
<p style="text-align: center;">健康支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感染状況を踏まえ、対策をとりながら看護師が保健年間指導計画に基づき保健指導を行った。今年度は、官民協同の事業である花王による手洗い指導を受けるとともに薬剤師に手洗い指導を受け年長の子ども達が『手洗いマスター』となり手がきれいになったことがわかる手洗いせっけん液を用いて年少の子どもたちに手洗いを教える活動に取り組んだ。また、子ども達の生活や年齢に合わせて、トイレの使い方や体の仕組みについて等をペープサートでわかりやすく興味を持てるように指導した。年長児には、身体についてシリーズで看護師から話をすることで自身の体を大切にする意識につながった。 ・今年度はコロナ対応だけでなく、他の感染症の流行もあった。感染状況に応じて体調管理を細やかに行い、情報を掲示し、保護者職員間で共有した。
<p style="text-align: center;">安全管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の避難訓練を様々な災害を想定しながら行い、職員間で反省し改善していった。今年度も、総合訓練時に豊南会館及び地域の方と共に南消防署の指導を受け水消火器を使い訓練を行った。昨年度より参加人数が増え、子ども達との交流の場にもなった。 ・毎月安全点検を行い、固定遊具や施設の危険な箇所は補修し、常に安全を心掛けていった。 ・交通安全指導は、子ども達が DVD を視聴、紙芝居を見ることなどから安全に気を付けることを意識づけていく場とした。
<p style="text-align: center;">食育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達が畑や、プランター、保育室でと年齢に合わせ、工夫しながら野菜の成長を感じる経験ができた。 ・今年度は、少しではあるが子ども達がクッキングをすることが増えた。絵本の中に出てくる料理をクッキングすることで子どもたちのごっこ遊びのイメージが広がる活動に繋がった。 ・技能員と相談しながら、畑の収穫物を給食に取り入れることや、保育教諭が子ども達の目の前で調理するのを見せることで、子ども達は匂いや色の変化や味を楽しみ菜園活動から食へとつながる経験をすることができた。
<p style="text-align: center;">子育て支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入園している子どもの保護者 ・地域の子育て家庭 ・地域との連携 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達の園での様子を伝えるために、写真を使ったドキュメンテーションで各クラスの活動の様子を伝えていった。今年度は、年2回のクラス懇談を行った。クラス懇談はクラスの状況に合わせ、少人数のグループ懇談や、全体のクラス懇談にするなど工夫し、保護者の方と園の保育教育で大切にしていることや子どもの育ちを共有することができた。 ・朝夕の送迎時や個人懇談等で保護者に園での様子を伝え個別に子育ての悩みを聞きながら共に子育てについて考えていった。 ・地域支援事業の園庭開放は一時中止する期間があったが、再開するとたくさんの方が利用され地域の中で支援センターが必要性とされていることを感じた。 ・わんわん、ぴよぴよのサークル活動では、密にならないように、人数制限をしながら行った。

	<ul style="list-style-type: none"> ・園の子どもたちとは、触れ合う機会を持ちにくい状況は続いているが、誕生会に参加し、一緒にプログラムを楽しむなど少しずつ交流の場を増やしている。 ・2歳の育ち講座では、担任から子どもの姿を具体的に話すことで、我が子の姿と合わせ、子育ての不安を解消する機会になった。
教育・保育内容 ・養護・健康・人間関係 ・環境・言葉・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・「幼保連携型認定こども園教育保育要領」を基に「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を念頭におき、教育保育を進めていった。現状から課題をとらえ保育の中でねらいを持ち、一人一人の違いを認め合い、個性を大切にしながら保育教育を進める。保育教育に必要な環境を整え、子どもに応じた個別の支援や具体的な手立てもしていくことで「共に育つ仲間づくり」を進めていけるようにした。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・集団の中での子ども理解を深め、どのような支援が必要かを教育相談を受けることや児童発達支援センターからのアドバイスを生かし、一人一人に適した支援を行い集団の中で共に育ち合う教育保育を行った。
職員の資質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・アドバイザー研修では「一人ひとり自信をもって活動し、違いを認め合うなかまづくり」という今年度のテーマに基づき講師を招き、具体的な遊びを学んだ。 ・環境ガイドラインも使い公開保育をすることで職員の学びや気付きにつなげ、保育を見直す機会とした。 ・人権研修では同和問題、豊中市の人権保育の中で大切にしてきたことを学び、職員劇に取組みグループワークを行ない、自身の保育観を振り返り、人権意識を高めていった。
幼保こ小中の連携	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、幼保こ小の連絡協議会において、就学に向けて子どもの情報を交換し年長児が小学校訪問をする機会を持ち交流することができた。切れ目のない支援を行えるよう教育センターや小学校との連携を子ども達が安心して学校生活を送ることができるよう配慮や支援の在り方を伝え情報を共有した。
関係者評価の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・評議員会は書面開催1回と対面開催2回を実施した。子ども達の様子を見ていただくことで、こども園の存在の大切さをご理解いただき、地域と共に子ども達を見守り育てていく重要性についても再確認した。校区連絡会では、地図を真ん中にお互いの現状について知り合えた。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、地域の高齢者施設へ子ども達の作品を届け、高齢者の方からも折り紙の作品をいただく交流を行った。園庭で体操を一緒にする機会や、太鼓の演奏会に来ていただく交流ができた。 ・近隣の療育施設からの見学などの交流があり地域の繋がりが広がりつつある。

○今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

課 題	具体的な取り組み方法
<ul style="list-style-type: none"> ・保護者支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの結果から、「子育てが楽しい、相談相手がいる。」が昨年度に比べて増加傾向がある。保育参加、個人懇談、クラス懇談を持つ機会があり、保護者同士が知り合える機会を持つことができたことが要因の一つとして考えられる。園の職員が保護者に寄り添い、信頼関係を築いて子育てを共有し、園が安心安全の場になるよう努めていく。引き続き保護者間のつながりを持てるような取り組み等を次年度も計画していく。
<ul style="list-style-type: none"> ・教育保育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの違いを認め合い、個性を大切にしながら保育教育を進める。保育教育に必要な環境を整え、子どもに応じた個別の支援や具体的な手立てもしていくことで「共に育つ仲間づくり」を進めていく。

令和5年（2023年）3月 31日

豊中市立 豊南西こども園

園長名 松田 恵